

Profile

小川 じゅん

自身が経験した産後鬱や子育ての大変さから、子育て支援アドバイザーの資格を得て活動。

平成27(2015)年から「みんなの笑顔」をテーマに親子や地域の人が集えるイベント「みんなの笑顔のSUN FESTA」を実施。

令和元(2019)年には、宮前区野川で空き家をリノベーションし、地域の人が集える「TIDA's house(ティダズハウス)」運営。

地域デザイン会議をきっかけとした宮前区役所市民広場を活用した地域住民の交流イベントを開催。

「みんなの笑顔のSUN FESTA」開催のきっかけ

ママ友が誰も居ない中、
宮前区で子育てスタート。
必死に出歩いて、ママ友を作っていくうちに、
親子や地域の人が集える場所を作りたいと思うように…

平成27(2015)年から
**「みんなの笑顔の
SUN FESTA」**
を毎年開催！



「みんなの笑顔のSUN FESTA」の様子

地域のママが作る
ハンドメイド作品、
スイーツなどの販売



子どもが楽しめる
ワークショップも開催



令和5（2023）年で
SUN FESTA Vol.9
を迎えました！

「TIDA's house(ティダズハウス)」

日々楽しいことができないか、
「毎日がSUN FESTA」を目指して
自宅近くの空き家をリノベーション



令和元（2019）年
「TIDA's house」をオープン！



ゆったり話せる
レンタルスペース



子どもたちの集いの場
「駄菓子屋さん」

ハンドメイド作品
を販売できる



地域デザイン会議

公共施設の地域化

公共施設について、より自由度の高い活用に向けた地域での利用ルール決定や、その管理・運用への参加を促進すること



宮前区地域デザイン会議

「公共施設の地域化に関する検討」

- 区内の公共施設を活用した事例紹介
公園でのマルシェ 向丘出張でのコミュニティカフェ



- 公共施設の種類によって、法律や管理基準が異なり、施設の種類ごとに議論を進める必要があるなどの課題が共有された。
- 宮前区役所と市民館の間にある「市民広場」の活用に向けたアイデアなどを意見交換した。

地域デザイン会議後、市民広場活用の具体的な取組を進めるため「宮前区役所市民広場活用検討委員会」を試行で立ち上げる。

宮前区役所市民広場の活用の取組

フリーマーケット



カフェ



マルシェ



市民広場が地域の人たちの「交流・つながりの場」に…

キャンドルナイト



16mmフィルム上映会



Profile

黒江 乃理子

川崎区でダンススクール、学習塾、ベトナム料理店を経営。

グローバル文化協働支援センター理事長を務め、ベトナム人留学生の地域活動への参加支援などを行う。

平成29 (2017)年から地域のコミュニティづくりのため子ども食堂「大家族ふるさと食堂」を運営。

令和5 (2023)年度川崎区ソーシャルデザインセンターの運営団体のひとつになっている。

「大家族ふるさと食堂」

平成29 (2017)年に幸区のベトナム料理店で
「大家族ふるさと食堂」をスタート



コロナ前の交流風景（2017～2019）



子どもの居場所



ビュッフェスタイル



ママたちの
交流の場にも



大皿を囲む
大家族スタイル

コロナ禍での転機（2020）

川崎区宮本町に移転し、お弁当の配布に



月2回、約100日
のお弁当を配布



フライ担当のおっちゃん！
70歳には見えない若さ！



お弁当は、一つずつ包装！



子ども用

「大家族ふるさと食堂」を支える人

協働ボランティアチーム



食料提供は **地域の支援者** が協力



支援者・協力者と地域の人々を繋ぐ！



その中での**見守り**が自然に生まれる！



お弁当が届くまで



川崎区宮本町
クラウドキッチン1・2・3
大家族ふるさと食堂



配達

配達

協力

殿町地区協力隊
浅田地区協力隊



協働ボランティアチーム

幸区メロディーココ

川崎区本町
JDSグローバルスクール学び場
月1回~2回カレーの日

注文 1週間前



注文は公式LINE



川崎区地域デザイン会議

令和3（2021）年度

「食料支援を通じたつながりづくり」

- こども食堂を運営する団体や運営団体を支援する団体が、こども食堂や食料支援の実施状況を共有する機会となった。
- コロナ禍での運営課題や食料支援を通じた地域におけるつながりづくりについて意見交換した。
- 子ども食堂が子どもの支援だけでなく一人暮らしの高齢者の支援にもつながっているなどが紹介された。



会議で出た意見

生活が大変な家庭への支援より、子どもたちの居場所づくり、つながりをつくることを目的にやっていたが、見守りの対象となっている家庭の子どもが来てくれ、とても喜んでもらったこと、活動を続けていけば少しずつそういう家庭ともつながっていけると実感した。

（大師第1地区社会福祉協議会青少年福祉部）

コロナ禍でみんなで食べることができなくなったが、会食形式からお弁当形式に変えて取り組みを続けている。食料を持って家庭訪問をするというのは嫌がられるかと思ったが、意外にも話を聞いてほしいという家庭が多かった。

（社会福祉法人青丘社）

カフェでこども食堂を行っているので、地域活動とカフェの線引きが難しく、地域への宣伝が難しかったが、地域活動の部分だけのチラシを作ったところ、町内会の回覧板で回してくれることになり、地域の人たちとのつながりも作り出せるようになった。

（合同会社ゆいまーる・いきがい工房さらら）